

2. 連絡会発足とその後の10年

(1) 男女共同参画学協会連絡会の発足と大規模アンケートなどの活動

(独) 科学技術振興機構 小館香椎子 (初代学協会連絡会委員長)

「男女共同参画社会基本法」が制定されたのが1999年、国をあげた推進が始まったのとはほぼ同時期に、学界でも、日本学術会議が同様の方針を掲げ、学協会に対する具体的な取り組みの要請がなされました。

応用物理学会では、2001年1月に女性研究者ネットワーク準備委員会を作り、同年7月には理事会承認を得て応用物理学会男女共同参画委員会が発足しました。その後、2002年3月には、IUPAP主催のWomen in Physicsに日本物理学会との共同参加をするなど、国際的活動を続ける中で、こうした活動には、国内学協会の連携協力が不可欠であるとの認識も強まってきました。そのため、応用物理学会、日本物理学会、日本化学会の3学会が中心になり、学術団体として認可された理工系学会・協会に働きかけ、男女共同参画社会の実現の推進のための連携を目的とした「男女共同参画学協会連絡会」(正式参加学会18、オブザーバー13、計31団体)を同年10月に設立しました。設立記念式典には、来賓として、当時の文部科学大臣遠山敦子氏、内閣府男女共同参画局長坂東真理子氏、文部科学省主任社会教育官名取はにわ氏を迎え、100名を超える出席者とともに、それぞれの学協会の現状報告およびアピール文に関する活発な議論が交わされました。その場で「自然科学ならびに科学技術関連分野において、

男女のバランスの取れた参画が今後の発展にきわめて重要であることを認識し、男女共同参画社会の実現に向けて、ともに協力しあいながら行動する」というアピール文が採択されました。連絡会の運営は、正式加盟学会が1年単位の持ち回りで担当することとし、初年度は、応用物理学会が幹事を務めることになりました。

連絡会発足後の大きな活動としては、文部科学省からの委託を受け、科学技術系専門職の現状把握と課題の抽出および提言作成のため、39の学協会を横断する大規模アンケート「21世紀の多様化する科学技術研究者の理想像—男女共同参画のために—」の実施(2003年8月～04年3月、回答数:19,291件)があります。アンケート結果は、ワーキンググループが24項目の回答を詳細に分析し、科学技術分野における男女共同参画の実態を初めて明らかにしました。また、結果をもとにして4項目の提言がまとめられ、2006年度からの女性研究者支援事業の開始などの新たな政策に反映されました。今年度は、第3回目のアンケートが実施されています。

幹事学会は、日本物理学会、日本化学会と原子力学会へと引き継がれ、今年度は記念すべき10年目の節目を迎えています。これまでの歴代の幹事学会のご尽力への感謝と共に、若手研究者による新たな活動の創成を期待しています。

小館香椎子氏プロフィール



学歴：1963年日本女子大学家政学部家政理学科卒業。工学博士（東京大学）。専門分野：光エレクトロニクス。

職歴：東京大学工学部助手を経て、82年日本女子大学助教授、88年同大教授、92年理学部教授、01～04年理学研究科委員長・同大学評議員。06～09年女性研究者マルチキャリアパス支援モデルプロジェクトリーダー、09年日本女子大学名誉教授、08年～(独)科学技術振興機構男女共同参画主監、12年～(独)電気通信大学特任教授。

公職：第20期・第21期日本学術会議会員、93～01年郵政省、総務省電気通信審議会委員、01～10年総務省電波監理審議会委員、05～11年内閣府総合科学技術会議専門委員、11～12年(独)日本学術振興会外部評価委員、その他。

民間団体など：02～03年男女共同参画学協会連絡会初代委員長、02～08年電子情報通信学会評議員、06～08年応用物理学会副会長、10年応用物理学会功労会員、多数。

受賞：07年科学技術への顕著な貢献(ナイスステップな研究者)、09年文部科学大臣表彰科学技術賞、10年応用物理学会業績賞、10年総理大臣表彰(男女共同参画推進)、11年「電波の日」総務大臣表彰、SPIEフェロー、他。